

6 失語症等成人中途言語障害者への支援事業

（団体）成果・報告④は、協働でないといけない新しい形であると思う。

（担当課）高次機能障害は、障害者制度にのっていない障害であり、先進的な取り組みである。課題は、個別相談事業（月一回24コマ）で、（実施）5コマであった。これからは二月に一度行う。また、相談場所まで行かれない方もいるので、個別に対応していく。

Q この事業の成果の見方について。目指すところ（成果・効果）とは、労力をどれだけ費やしたかではなく、「対象者（利用者）」の救われた感が見えてこないといけないと思う。労力を投入しているけれど、そのような成果が見えにくかった。面談したときの利用者の声などあったら教えてほしい。

A 面談が終わった時のアンケートをとってないので、これからやっていきたいと考えている。

（意見）利用者の反応をみてほしい。

（意見）本来は行政が関わっていくべきこと。障害という多岐にわたる分野の中でなかなか手を付けにくかった部分であり、（この協働事業は）福祉にとってもありがたいことである。障害者福祉課だけでなく、高齢者いきいき課、市民健康課との連携もはかれるようになってきている。相談や研修とかを行うことで成人の言語障害を理解していただくには、家族、地域、職場での理解が必要であり、行政だけではとりくめないので協力が必要である。現場に行って、利用者と直接意見を交わされるなかで、出てきた声をぜひ担当課に伝えてほしい。それをどう反映するかをこちらで検討していく。今年度はもう一歩進めた協働の形にしたい。また、効果といわれているが、特に福祉分野は、今やった効果がすぐ見えるわけではない。忍耐と継続が必要な分野である。

(意見) 社会の狭間で苦しんでいる人がいる。市民と行政が手を組んでこういう方を支えていくのはとてもすばらしい。成果は見えづらいが、自分たちの活動を広報していくことが大切だと思う。

Q 成果が見えにくいですが、今後どう評価していくつもりか。

A 掘り起し、集中的に取り上げていく。余力がでた労力、予算を振り分けていく。個別相談に力をいれていく(外にでかけるのが困難な利用者がある)。個別相談では、コマを減らし、広報を進めていく。

(意見) 評価はなかなか難しいがやらなくてはならない。お互いに話し合いながら考えていきましょう。

(意見) 専門職が少ない中で、専門の方に会議等にかかわっていただくことで、障害を容するプロセスをスムーズにできたことがとてもよかった。

以上